

発掘現場から⑯

茶畠六反田遺跡

～見えてきた弥生のころ～



どこう
土坑から土器が出てきた様子

土坑から大量の土器片が
見つかりました。まだ調査は途
中ですが、昨年度調査した範囲
を含め、掘立柱建物や柵の跡、
土坑と呼んでいる大きめの穴な
どが見つかっています。この
土坑からは大量の土器片が出土
しました。これらの土器を詳
く調べると弥生時代でも中期の
中ごろから後半（約2200～
2000年前）にかけてのもの
であることがわかりました。そ
のほかの掘立柱建物や柵も地層

今月は茶畠六反田遺跡の弥
生時代の調査について紹介しま
す。茶畠六反田遺跡では、これ
までの調査で弥生時代から江戸
時代までのおよそ2000年に
わたる、昔の人たちの生活の営
みが確認されています。

構は、今私たちが生活している
地面よりも、浅いところで50セ
ンチメートル、深いところでは
150センチメートルほど下で
見つかりました。まだ調査は途



掘立柱建物跡

の状況や地層内に含まれる土器
の年代などから、ほぼ同じ時期
のものであると思われます。

茶畠周辺の弥生の景色

弥生時代の中期中ごろから後
半の時期の茶畠六反田遺跡周辺
は、どのような状況だったので
しょうか。茶畠六反田遺跡と蛇

ノ川を隔てて東側に位置する茶
畠第1遺跡では、竪穴住居12棟
や掘立柱建物6棟が見つかって
います。

また、茶畠六反田遺跡から
道遺跡でも、6棟以上の掘立柱
建物が確認されています。これ
らの遺跡からは、掘立柱建物で

このように茶畠六反田遺跡で
弥生人が生活していたころ、東
や北の近接地には有力者の居宅
もしくは祭殿などを含んだ集落
が営まれ、西に墓域が広がって
いました。茶畠六反田遺跡の調
査もいよいよ終盤です。今後の
調査結果を楽しみに待っていて
ください。

も珍しい、独立棟持柱建物と
呼ばれる、棟を支える柱を居住
空間の外側に配置したものが見
つかっています。この独立棟持
柱建物は一般的に有力者の居宅
もしくは祭殿などと考えられています。また西に600メート
ルほどの押平弘法堂遺跡からは
当時のお墓がいくつか見つかっ
ています。